

## 甲府市自殺対策推進協議会 平成30年度第2回会議 議事録

- 1 日 時 平成30年11月16日(金) 15:00～  
場 所 甲府市南部市民センター 会議室

### 2 出席者

#### ・委員(名簿順)

水野 恵理子	山中 達也	山角 駿	古屋 好美	小石川 好美
矢崎 秀治	大塚 克哉	志村 治夫	天谷 恵	関根 由起子
岩下 秀幸	寺田 幸子	小林 美貴		

(欠席: 戸田 知 市川 陽子 坂田 純恵)

#### ・事務局

福祉保健部長	相良 治彦
福祉保健総室長	八巻 一仁
健康増進課長	小川 忍
健康増進課係長	長田 麻衣子
健康増進課係長	武田 英明

### 3 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題
  - (1) 住民意識調査(アンケート調査)の結果について
  - (2) (仮称)甲府市自殺対策推進計画の素案について
  - (3) その他
- 4 閉 会

### 4 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者定員 5名  
傍聴者数 0名

## 5 議事の要旨

議題（１）住民意識調査（アンケート調査）の結果について

議題（２）（仮称）甲府市自殺対策推進計画の素案について

### 事務局

（アンケート結果、計画素案について一括で説明）

### 議長

ただいま事務局から説明がありましたが、何か質問や意見等がございますか。

### A委員

アンケート調査において、本気で自殺を考えた理由では「家庭の問題」が多いとのことですが、具体的にどのような内容が考えられるのでしょうか。

### 事務局

問題の詳細までは調査していないため、把握できておりません。

### A委員

ゲートキーパーの役割についてご説明いただけますでしょうか。

### 事務局

素案の15ページを御覧ください。ゲートキーパーの認知度はまだまだ低いため、用語の解説を載せてあります。なお、ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守ることができる人のことを言います。

### 議長

ゲートキーパーの養成は、具体的にどのように実施をしていくのでしょうか。

### 事務局

素案の「生きる支援の関連施策」の検討にあたって、自殺対策につながる事業を全庁的に募ったところ、ゲートキーパーの養成に関する事業も含めて各部署から101の事業が挙がってきました。また、庁内には様々な相談窓口がありますので、まずは市の職員を中心にゲートキーパーの養成を行い、どうすれば自殺のサインに気づくことができ、どういう支援機関につなげればいいのかという研修を実施することを考えています。また、市民の方にもゲートキーパー研修を受けられる機会を作っていければと考えています。

## B委員

自殺に関する相談ができる機会を設けているようですが、もし市民の方が自殺を考える状況になった場合、まずはどこに連絡や相談をすれば良いのでしょうか。また、自殺を考える原因によって相談する窓口が異なってくると思いますが、相談機関の横のつながりや、適切な支援につなげるシステムはあるのでしょうか。

## 事務局

甲府市では、相談窓口を「山梨県いのちのセーフティネット相談窓口及び甲府市役所の相談窓口」として一覧表にまとめており、今回実施したアンケート調査票の裏面にも掲載をさせていただきました。ただし、「どこに相談したら良いかわからない」という方がいることも想定されますので、相談窓口の周知を図っていかねばならないかと思えます。また、来年度に開設する保健所には心の相談窓口を設置しますので、そちらも含めて相談窓口の周知を図っていきたいと思えます。

## C委員

アンケート調査の結果が素案にどのように反映されたのかを教えてください。例えば、アンケート調査結果では、ストレス解消の手段として4割弱の方がお酒を飲むことを「良くする」「ときどきする」と回答していることが示されていますが、このような事項がどのように計画に反映しているのでしょうか。

## 事務局

甲府市では、今回初めて自殺対策推進計画を立てることであり、また、山梨県でも自殺対策推進計画を策定しているなか、甲府市として取り組むべきことが何であるべきかを考えた場合、市民にとって一番近いところの施策を実施していくことであると考えています。アンケート結果から、ゲートキーパーや相談窓口の認知度不足などの課題がみられましたので、まずはそちらを重点的に行っていくことにしています。

ただし、アンケート結果ではアルコールでストレスをまぎらわせると回答した方が多いことも確かであり、例えば、素案に記載している「こころの健康に関する出前講座の実施」を行う際、要望があれば、県の専門機関と連携して、アルコールに関する講座を行うことも機会としてあると思えます。また、来年度からは保健所の開設に伴って専門的な職員の配置を行うため、相談窓口の認知向上等の基本施策と合わせて、アルコール依存症への対応などを保健所としての専門的な機能を重層的に実施していくことを考えています。

## C委員

市民の方には10歳代でも飲酒に頼っている可能性もあるかもしれませんが、多くの方がアルコールに頼っているという甲府市の現状を真摯に受け止めて、全国一律の計画だけでなく、甲府市の独自性を持った計画を立てられるべきかと思えます。

## 議長

甲府市の自殺の実態を踏まえて実施するという重点施策について、もう少し詳しくご説明いただくことができますでしょうか。

## 事務局

(重点施策について素案に基づき説明)

## D委員

重点施策 4 で SOS 教育の講師育成に関する施策がありますが、具体的には教職員にゲートキーパー研修を行うということでしょうか。また、ゲートキーパーについてあまり理解をしていないのですが、資格の取得や講習の受講時間等の規定があるのでしょうか。

## 事務局

ゲートキーパーの養成は、特に資格を与えるというものではなく、あくまでゲートキーパーの講習を受けていただいて、自殺に関する理解を広げてもらうものとなっています。市民の方であれば、まずは数時間講習を受けていただいて、もっと自殺対策に深く携わる方であれば、ロールプレイングを含めた研修を受けていただくこともできます。国の方針に則った参考カリキュラムがありますので、受講時間や内容については相談しながら決めていければと考えています。

## E委員

重点施策 4 で教育現場との連携について触れられていましたが、子どもの自殺対策に関する施策はとても重要だと思います。一般の小中学校では自殺に至る問題とは少ないと思いますが、特別支援学校には心の病を抱えた子どもが在籍しており、自殺に至ってしまう可能性も高いのではないのでしょうか。一般の小中学校、特別支援学校のいずれについても、日常子どもと接する大人が SOS のサインにいち早く気づけることが大事であり、先生の一人ひとりがそういった知識を身につけることが重要だと思います。また、子どもの中には虐待やいじめ等で悩む人もいますので、そういった子供をぜひ救っていただきたいと思います。

## D委員

最近では携帯やスマホを使ったいじめもあり、気づいたときには大きな問題になっているときもあります。教育現場だけでなく、家庭や親御さんも含めて、いのちの教育を道徳の授業等でおこなっていますが、まだまだ不十分なところもあるかもしれませんので、ぜひ行政の支援体制を築いていただけるとありがたいです。

## 議長

子どもの自殺対策は、20歳未満の死亡原因で自殺の割合が高いこともあり、重要な問題だと思います。

## F委員

計画の中に山梨産業保健センターとの連携に関する記載がありますが、具体的にどのような連携を考えているのでしょうか。

## 事務局

職域における支援について、市としては経験が浅いところであり、是非どういう形で連携するのが良いのかを山梨産業保健センターと相談しながら、連携を深めていければと考えています。

## 議長

職域における自殺対策は、40歳代の自殺率が高いという甲府市の特徴があるため、重要な問題だと思います。山梨産業保健センターと相談しながら、スムーズな連携を図っていただきたいです。

## G委員

素案の内容は、庁内の取り組みや他機関との連携について検討されており、よく整理されているかと思います。ただし、先程もご意見があったとおり、市民が困ったとことがあって悩まれたときに、自殺するほどではないけれど相談したいということもあるため、市民の困りごとに対する相談窓口の明示や、フェーズごとの相談窓口を詳しく示すことで、市民にとってより生きた計画になるのではないのでしょうか。

## 事務局

自殺を考えるきっかけとなりうる問題は本当に幅広いため、市民が悩まれている問題の支援にアクセスできる相談窓口を周知していくとともに、自殺対策を担当する窓口がネットワークを組めることが重要になってきます。庁内でも福祉保健部以外の部署で相談を受けることもあるかと思うので、まずは市の職員がゲートキーパー研修を受けて、自殺のサインに気づき、相談窓口につなぐというネットワークができれば良いかと考えています。

## 議長

一般的に自殺対策は、自殺のハイリスク者をより早く、かつ、いかに把握するかが肝だだと思います。次に、自殺未遂の行為に及んでしまった方や、その人を取り巻く周りの方のフォローをどのように行っていくかになるかと思います。そういった意味では、ゲートキーパーを養成することで、自殺のハイリスク者をより早く察知できる人を様々なところに配置でき

ることになるかと思えます。

### G委員

自殺対策の取り組みを市民にとってわかりやすく、段階を追って確認できる内容になっていると、市民にとって使いやすい計画になるかと思えます。ゲートキーパーの養成、若年層向けの啓発、県との連携等の施策について、プロセスや数値目標の設定など、目に見えるように意識して構築してはいかがでしょうか。

### C委員

相談窓口一覧には住所と電話番号が記載されていますが、アンケートの結果を見ると、LINE や SNS などのインターネットが多く活用されていることがわかります。県立大学の学生にも、メールは見ないけど、LINE なら利用していることもあります。東京都では LINE での相談や、QR コードで相談窓口に直結するなどの取り組みを始めているため、甲府市でも同様の取り組みをしてもいいのではないのでしょうか。例えば、若年層向けの啓発ポスターに QR コードや URL を記載する、LINE で気軽に相談できる等の案内をしてはいかがでしょうか。

また、妊産婦の1番の死亡原因が自殺であるため、今後は保健所が立ち上がっていくなかで、母子保健の取り組みについても更に強化をしていただきたい。

### G委員

自殺対策の施策を効果的に実施していくためには、ターゲットを明確にする必要があるかと思えます。勤労者・経営者の対策についても、勤労者と経営者では取り組むべき対策も異なってくると思いますので、どのようなアプローチを行っていくかを整理するべきではないのでしょうか。

### 事務局

妊産婦に関する取り組みは、素案の43ページに母子保健事業として記載をしており、妊産婦を適切な治療につなげるため、医療機関で産後2週間検診、及び、1ヶ月検診でスクリーニングを行い、数値が高い場合は医療機関から市役所の母子保健課に連絡があり、対応の検討や支援を行っています。また、甲府市では母子保健に関する子育てアプリを配信しており、妊娠中や子育てに関する支援情報を発信しています。

なお、SNS を活用した相談については、県の方でも自殺対策で SNS の活用を検討しているとのことであり、県と連携しながら検討していきたいと考えております。

### 議長

その他に、意見等はありませんでしょうか。

## B 委員

精神障害があつたり、不登校であつたりすると、周囲から「悪いことをしている」と感じることがあります。自殺を考える人は自分を責めてしまう心の優しい人達であり、不登校の原因を生み出す人達が悪い人であるという社会の風潮になる甲府市になっていただければとありがたいです。

## H 委員

ハローワークに寄せられる勤労世代からの相談について、最近は景気が良いので、健康上の都合等が無ければ、就職に関する相談はあまりありません。そのため、自殺に関わる相談としては、貧困やメンタルヘルスの問題が中心です。ハローワークとしては、相談者の話を傾聴したり、市の福祉担当部署と連携して支援につなぐようにしています。

## I 委員

高齢者には引きこもりになってしまう方も多くいるため、甲府市では元気アップチェックを行っており、チェックに該当する方には声掛けを行っています。また、元気アップチェックを行う期間以外にも、親族が亡くなること等により引き込りになる方もいるため、いきいきサロン等の取り組みを通じて、地域での見守りや支援を行ってきたいと思います。ただし、いきいきサロンに参加できない方もいるため、地域やご近所の方の協力による声掛け等を実施していききたいと考えています。

また、認知症の介護等で負担を抱えている方もいるので、オレンジカフェを定期的に開催して、みんなで気持ちを語り合えるような機会を設けていきたいと思います。

## J 委員

警察は自殺企図者と最初に接触する立場にあるため、行政との連携によるゲートキーパー講習の実施は、警察の職員にも非常に有効であると感じました。自殺に関する相談に対応する職員として、自殺に関する知識を持っていないかならぬかと思っています。

## K 委員

勤労者の自殺対策について、市立甲府病院には 370 名のスタッフが在籍していますが、看護師の仕事は夜勤等があるため、毎年数名の職員がメンタルに不調を訴えることがあります。職場の管理者が職員のメンタルヘルスや労働環境を理解してケアできるようになる必要があります。職員と管理者の双方の教育を実施して行く必要があると感じました。

## A 委員

いのちの電話の相談体制については、限界に近い状況になっています。今夏は相談員が病気になるなどしたため、相談時間を確保できない状況となっていました。

また、新潟で開催された相談員向けの研修会では、いのちの電話についてもっと PR して

いくべきとの話がありました。いのちの電話を知らない人も多いため、来年 1 月にイオンモールで自殺予防講演会を開催する試みを行います。また、インターネット上での情報発信について、山梨いのちの電話ではホームページの内容を充実させることを考えています。

## L 委員

先ほど妊産婦の自殺対策に関する話がありましたが、障害を持った方の自殺対策についても検討が必要かと思えます。また、若年層については、SNS でのトラブルは外から見えぬ陰湿であるため、どのような対策ができるか検討が難しいこともあるかと思えます。

## C 委員

妊産婦の自殺予防には新生児訪問が効果的であると思えますが、新生児訪問は県の事業として実施しているのでしょうか。また、新生児訪問は母子保健事業の一環として実施されているのでしょうか。

## 事務局

素案の 47 ページに子育て世代包括支援センターの運営について記載していますが、甲府市では妊産婦ごとに担当する保健師を明確にして、適宜相談できる体制をとっています。また、新生児訪問は、市の保健師、もしくは委託の保健師に依頼することで、基本的には新生児家庭の全戸を訪問しています。

先ほど警察の職員に関するゲートキーパー研修について話がありましたが、素案の 22 ページに記載しているとおり、自殺対策を支える人材の育成として各種団体向けの養成講座の開催を考えています。本日までご参加の委員の皆様や団体では、自殺に関する相談を受けることが多いかと思えますので、市にお声掛けいただければ、ゲートキーパーの研修を実施していきたいと思えます。また、これまではゲートキーパーについて市民の方を対象とした地区の保健計画推進協議会という地区組織と共同で実施しており、計画の数値目標を達成していくためにも、ゲートキーパーの養成には力を入れていきたいと考えています。

## 議長

皆様の意見を総括しますと、まずは相談窓口の明確にすることが重要であり、市民が自分の困り事をどこに相談することができるかを自殺予防週間等で周知することが必要かと思えます。

## 議題 (3) その他

### 議長

その他、会議を通じてご意見等がありますか。

(質問・意見は特になし)

## 事務局

前回の推進協議会でご提出やご発言いただいた各団体の取り組みを資料にまとめましたので、ご一読ください。

以 上